

川口市のモノづくり企業

あくなき挑戦へ

埼玉県川口市には、加工技術を中心としながらも自社商品の開発に力を入れ、市場拡大を進める中小企業も数多く集まっている。蓄積してきた高い技術力を武器に、地域に根ざした事業を展開している。近年は、イラン情勢、原材料費の上昇やエネルギーコストの増

加、人手不足など、事業を取り巻く環境は依然厳しい。しかし、製造工程の自動化や新商品・サービスの開発、積極的な設備投資など持続成長に向け相次ぎ手を打っている企業も多い。あくなき挑戦を続ける3社の取り組みを紹介する。

川金ホールディングス（埼玉県川口市、鈴木信吉社長）は、2020年3月期を最終年度とする3カ年次中期経営計画で、25年度比約60%増の連結売上高500億円を目標とする。建設・半導体の工場増設などが響き、足元の業績は足踏み状態だが、半導体製造装置向けを成長エンジンとして収益拡大を狙う。さらに防衛、船舶、航空宇宙といった成長分野への参入を本格化。「研究開発を進めていき、さらなる成長を図る」と鈴木社長は力をめる。

川金ホールディングス

西市は、建物用型鋼ダンパーの新規の開発を完了し、25年度内の市場投入を予定する。これまでになかったサイズで、さらに減震性能を高めた改良タイプとして、高付加価値を図る。あわせて、グループ各社が個別に持つ機械加工機能の抑制を進め、外注の抑制や内製化を進め、DX（ファクトリーオートメーション）を加速する。生産性の向上と新領域の開拓を両輪に、持続成長を図る。

防衛、航空宇宙など成長分野参入も



川金HDは半導体製造装置向け部品が好調。25年度に売上高500億円を目指している（川金HD本社）